

新しい活動を取り入れて

田野畑村漁協 田野畑浜婦人部

部長 山 根 律

1 地域と漁業の概況

私達の住む田野畑村は北部沿岸に位置し、南は宮古市、北は久慈市のほぼ中間にあり、自然に恵まれた素晴らしい所でございます。

昭和54年に田野畑浜漁協と浜岩泉浦漁協とが合併して現在田野畑村漁協となりました。正組合員360名、准組合員95名、合計455名であります。

主な漁業種類としてはワカメ、コンブ養殖業、定置網漁業、鮭延縄漁業及びアワビ・ウニの採介藻漁業であります。

2 組織と運営

私達の漁協婦人部は昭和32年に発足しました。部長ほか24名の役員で構成され、現在の部員数は70名ですが、漁家以外の婦人も私達の計画に参画し、一緒に活動しております。運営は部費と漁協からの助成金によって賄っております。

3 活動課題の選定の動機

私達の漁協婦人部員数は、漁業従事者と同様に減少傾向を示すとともに、高齢化が進んでいる状況であります。地区の漁業就業者数の状況をみますと、表1に示すように、昭和63年の438人が、平成5年には、379人となり、13%も減少しました。このように、若い男子が減少することは地域産業の活力低下となるため、今、婦人部でできることは何かについて討議しました。この討議により、小中学生のいる家の若い婦人の加入が不可欠と云うことになり、「はればれ教室」の名称で新しい活動を取り入れました。小さな取り組みではありますが、ここ数年来取り組んできた課題と合わせて紹介させていただきます。

4 主な活動状況

(1) ここ数年来の取り組み状況について

当漁協婦人部では漁家の生活向上のため、部の発足と同時に、他地区の漁協婦人部との交流を参考として、次の課題に取り組んできました。

① 貯蓄運動について

毎月班長による集金により、定期積立や普通貯金の積み立てを継続するとともに、共済推進運動として、漁協の担当者との勉強会を開催しております。

② 増殖事業について

漁協青年部と共催して、マツモ、フノリの増殖のため、磯掃除を実施しております。

③ 海を守る運動と環境美化について

漁場環境保全のため、合成洗剤を追放と、石鹼使用のPRを行ったところ、図1に示すように、平成3年度の10%以下であった使用率は、次第に高くなり、平成7年度には23%位に向上しています。また、家庭からの廃油で石鹼を作る活動を行ったり、観光シーズンには婦人部主催で年2回ほど海岸の清掃を行っております。さらに、PTA、地域、漁師組合及び養殖組合員として一人の人が数回にわたって清掃に参加したり、地域内に4カ所の花壇作りやハエの発生防止のために、地域の人達の協力を得て、4月～10月まで毎月2回薬剤散布を継続実施しております。

④ 研修事業について

魅力ある活動推進のために年数回婦人部独自で、部員の希望に応じた和裁、手芸、着付け、或は、魚食普及のための料理講習、ライフサイクルについての勉強会を実施しております。その他、村が主催する21世紀学園への参加もあります。また、数年前から、部員の楽しみとして研修旅行を計画し、加工場施設の見学、地域の市場などの見学をしております。

⑤ 福祉施設慰問及び広報活動について

下閉伊地区の漁協青年部等と漁協婦人部が共催して実施している「海の幸一握り運動」に参画し、村の老人ホーム寿生苑に慰問を行っております。

その他、部員相互の共通の情報源として、役員会を開催した後、決定事項やそれまでの活動経過を「婦人部だより」として年に数回発行し、理解と協力を得ております。

(2) 新しく取り入れた活動内容について

私達の婦人部活動は、地域社会の要請に応えなければならないことから、奉仕活動が中心であります。この結果として、若い婦人から敬遠されてきたと考えております。

このため、数年前から部員の確保について検討しておりましたが、昨年度、部員の親睦と交流にも力を入れ、名称を「はればれ教室」と名付け、新しい事業を取り入れて、部を運営していくことにしました。そして、若いお母さんのいる漁家を訪問し、婦人部への加入を勧め、若い人の意見や要望を尊重し、活動しております。その主な内容は、毎月第3水曜日にソフトバレー、卓球、バトミントン、おしゃべり等であります。図2に示すように、最初は人数も4～5人程度でしたが、次第に多くなり、季節にもよりますが年末には25人位、現在は15人位の参加となっております。

5 今後の課題

婦人部員数は、昨年度まで減少傾向を示しておりましたが、「はればれ教室」により新しい活動を取り入れて2年目となる今年度は14名を増員できました。

私達の小さな地域においても魚価の低迷、漁獲高の減少、若者の漁村離れによる労働力不足等の課題を抱えております。

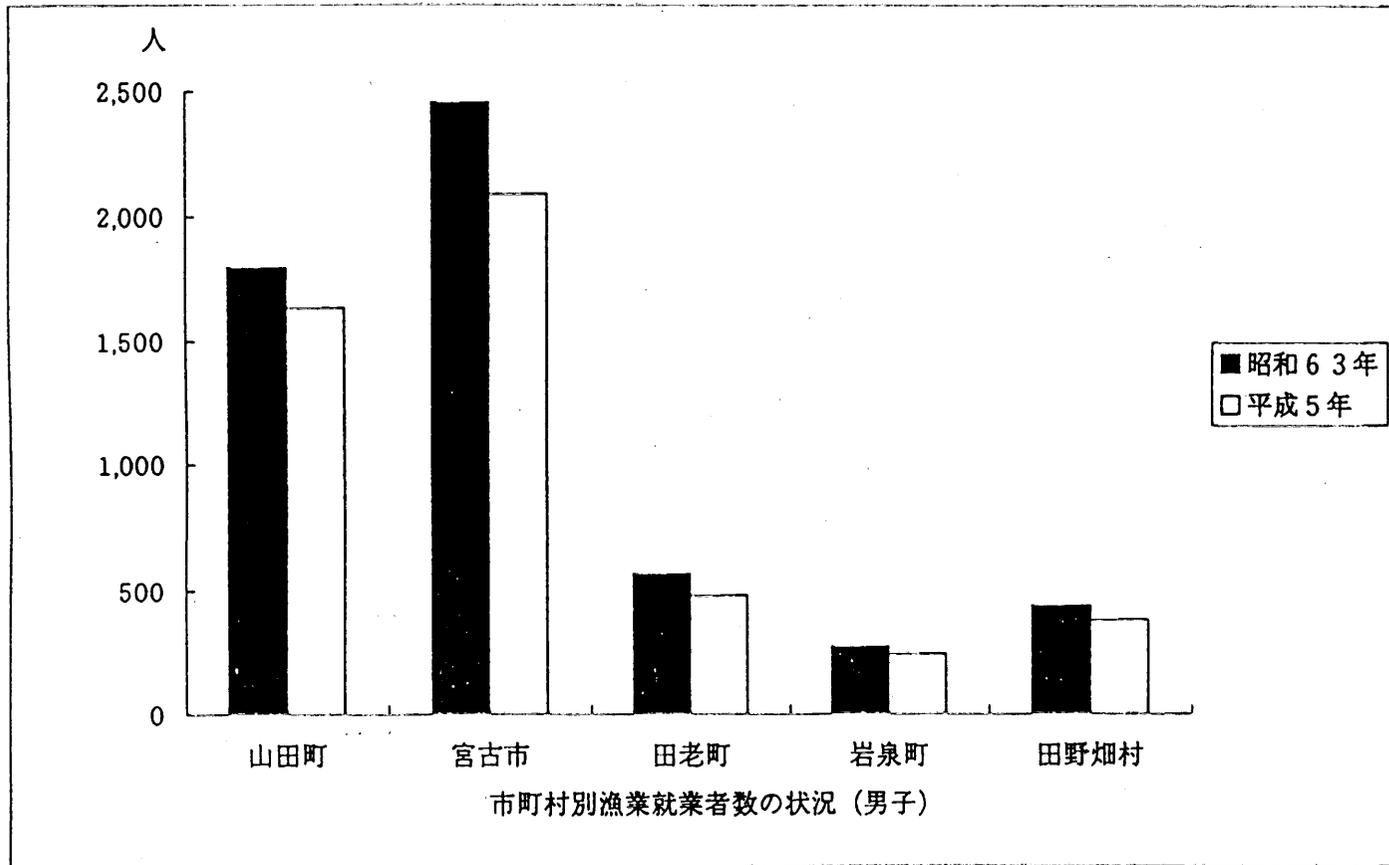
また、PTAの行事や行政のイベント等ますます増えて、日中や休みの集会及び勉強会の人集めが非常に難しくなっております。

このように、多くの課題はありますが、多数の部員を確保し、主体性をもって活動し、地域の課題に取り組んでいきたいと考えております。

そして、豊かな自然を守りながら、その自然の中で子供や孫を育て、健康に良い水産物を生産している自信と誇りを持てるような婦人部を目指したいと思っております。

表 1 市町村別の男子漁業就業者数

年齢	山田町			宮古市			田老町			岩泉町			田野畑村		
	S63	H5	%	S63	H5	%	S63	H5	%	S63	H5	%	S63	H5	%
29歳以下	169	111	66	255	162	64	82	36	44	33	21	64	39	19	49
30～39歳	276	186	67	418	280	67	100	82	82	54	42	78	107	60	56
40～49歳	408	346	85	648	513	79	131	117	89	58	52	90	99	107	108
50～59歳	535	479	90	657	584	89	147	127	86	74	60	81	89	75	84
60歳以上	407	511	126	476	551	116	104	115	111	52	69	133	104	118	113
計	1,795	1,633	91	2,454	2,090	85	564	477	85	271	244	90	438	379	87



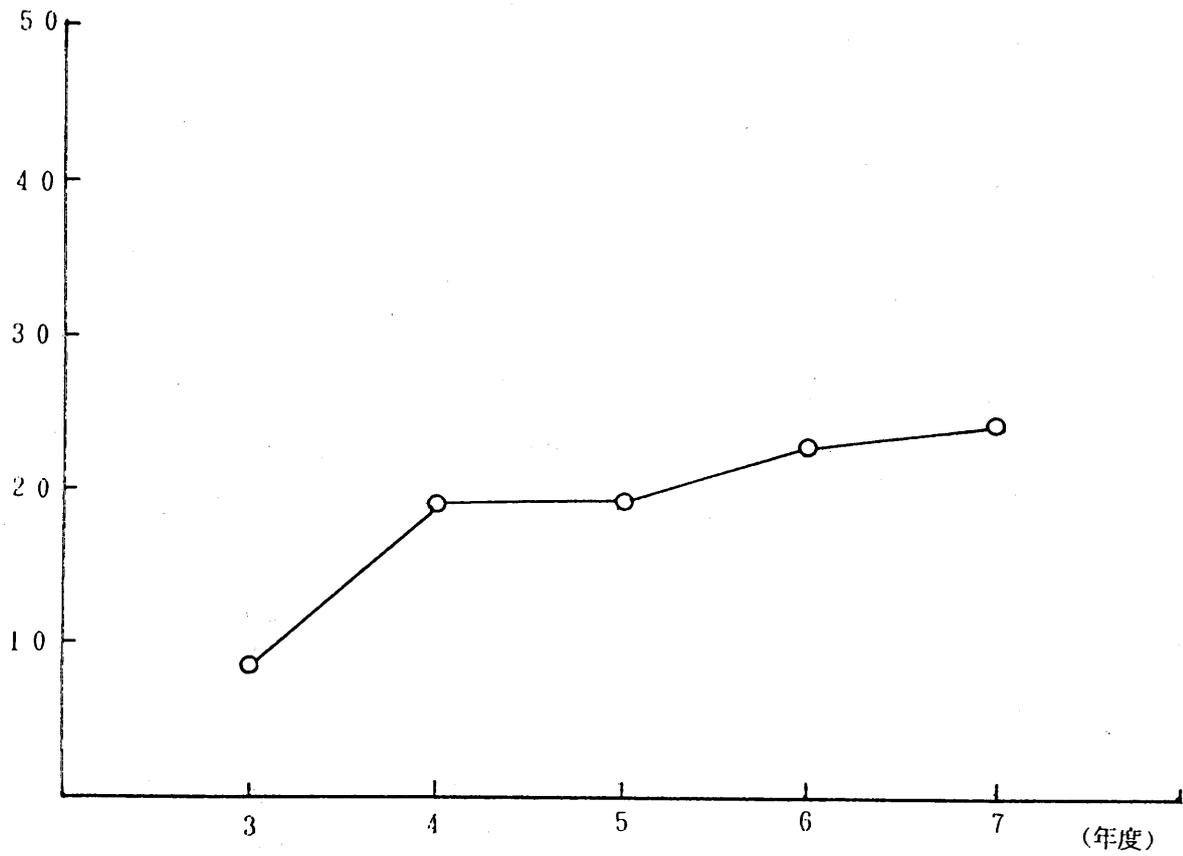


図1 石けん使用率

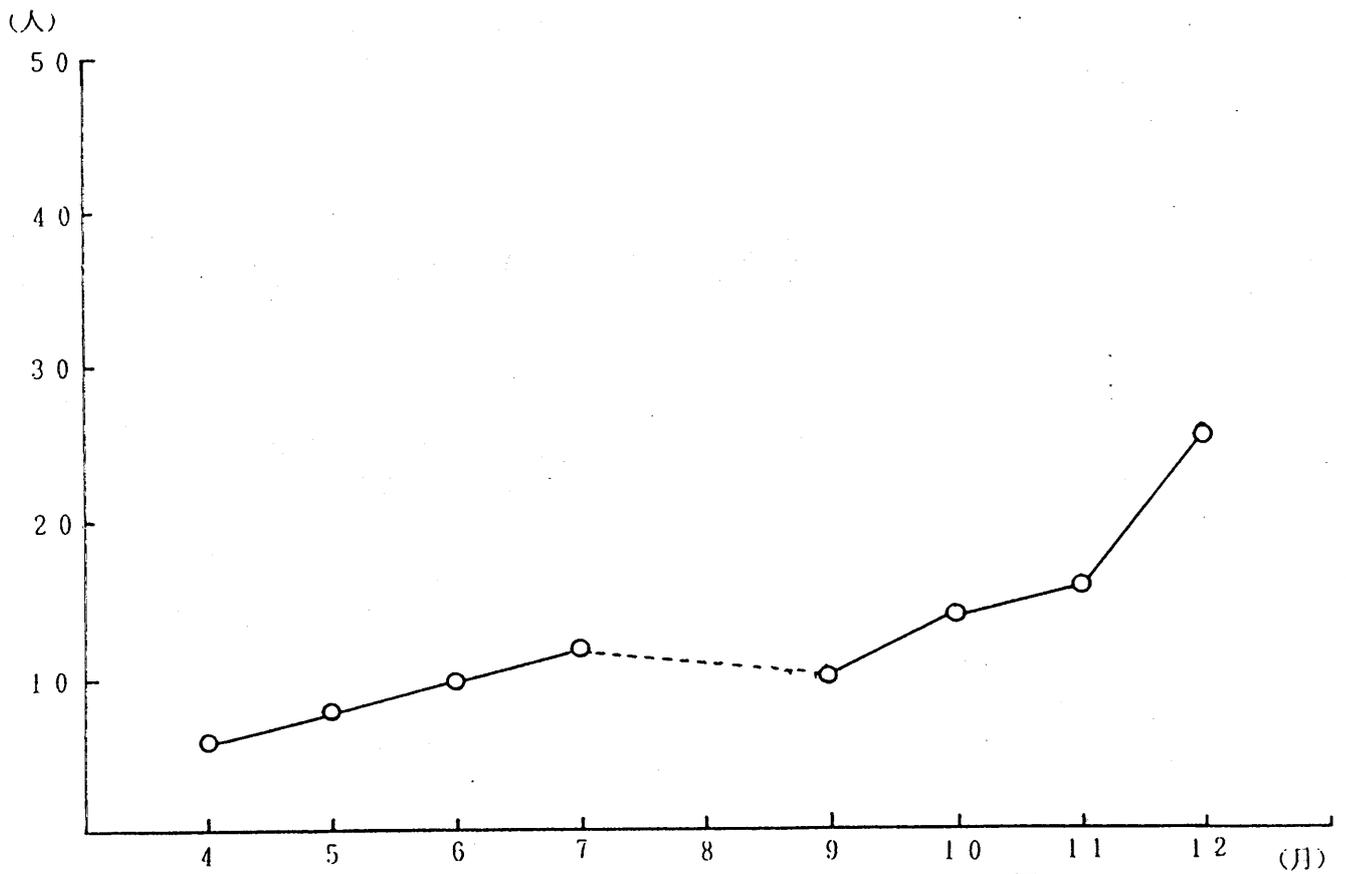


図2 平成7年度はればれ教室参加者